ホテル エーゼット
HOTEL AZ だより 2024年 秋編
Vol.18 令和6年10月号
ご自由にお持ち帰りください

長崎・時津町の旅

江戸時代初頭に大村藩が設置したお茶屋（本陣）。長崎街道や彼杵（そのぎ）にあったお茶屋はすでに跡形もなくなっているため、希少価値の高い歴史の遺産です。

人・時めぐり逢い紀行⑬

豊かな漁場として知られる大村湾を里海にもつ時津町は、長崎街道と並ぶ時津街道で知られる交通要衝の地。今回は自然、歴史、立地に恵まれ、賑わいを増す時津町の山上広信町長をお訪ねしました。

［発行問い合わせ］
株式会社アメイズ 福岡事務所
TEL:092-605-3321 FAX:092-605-3335
〒811-0213 福岡市東区和白丘2-3-2
令和6年10月発行 発行責任者 穴見 賢一（代表取締役社長）

時津町（とぎつちょう）は、長崎県の南部に位置し、北側は波静かな大村湾の南端部に接しています。長崎県で最も面積が小さい自治体ですが、長崎市街地まで車で約20分と近く、長崎市のベッドタウンである一方、町内にある多彩な商業施設をめざして多くの人が訪れる活気あるまちです。

人時邂逅（ひとときかいこう）

穴見 賢一
代表取締役社長
株式会社アメイズ

Kenichi Anami

1970年生まれ、大分県佐伯市出身。2016年『ホテルAZ』を全国87店舗展開する『株式会社アメイズ』代表取締役社長に就任。柔道初段。趣味はロードバイク、カメラ、ラジコン（車、飛行機）。

山上 広信
長崎県西彼杵（そのぎ）郡
時津町 町長

Hironobu Tamagami

1960年生まれ。時津町久留里郷出身。長崎大学水産学部卒業。時津町議会議員（7期）を経て、2023年、時津町長初当選。趣味は金属を溶接して物を作ることや絵を描くこと。得意料理は「鍋焼きうどん」。家族は妻と息子3人。

ゆったりと自然に親しむ「時」おいしいものと出会う「時」幸せの「時津風※」が吹き渡るまち

（※良いタイミングで吹く追い風）

時空を超えて活用される歴史遺産「お茶屋」

穴見 町名に「時」という字が使われているのは珍しいですよね。

山上 おっしゃる通り、時津（とぎつ）町は日本で唯一「時」という字が使われている自治体なんです。鎌倉時代にはこの地域一帯を時津と呼んでいて、昔から日本でお祝いやおめでたいこと、幸せを意味する「時つ」に由来すると伝えられています。結婚式などおめでたい席でよくうたわれる「高砂」という謡曲のなかにも「国の治まる時つ風」と出ています。

穴見 「津」は港の意味ですね。時津町は良港にも恵まれていたのでしょうか？

山上 はい、時津には海の交通の要衝として栄えてきた長い歴史もあります。江戸時代、大村藩の参勤交代の際など時津から彼杵（そのぎ）まで船で大村湾を渡り、江戸までの旅を続けたことが伝えられています。長崎から江戸までのルートとしては長崎街道が有名ですが、もう一つのルートとして時津街道があり、陸路をずっと歩いていくのではなく、船で海を渡る分、距離をショートカットできる時津街道が活用されていたとのことです。

穴見 船に乗っている間は、歩かなくてよいのでカラダを休めることもできますね。

山上 そうなんです。時津街道を利用するために大村藩は、時津と彼杵に大名や幕府の役人が泊まったり、休んだりするための宿を造りました。これは「お茶屋」と呼ばれて、そのころのお茶屋が町内に今も残されているんです。時津が宿場町として栄えていた時代をしのぶことができるスポットです。彼杵や長崎街道筋のお茶屋はなくなっているので、町役場のすぐそばに残っているお茶屋は本当に貴重です。

穴見 そうなんですね。見学はできますか？

山上 これまでクリスマスや二胡のコンサートなどイベントを開催してきました。職員が常駐できないことから、イベント時以外は一般公開していないのですが、町を象徴するスポットですので、今後は週末だけでも一般公開するなど観光資源としての活用を検討しています。

大村湾で獲れたての絶品食材

穴見 時津町ならではの観光スポットは、他にどのようなものがありますか？

山上 当町の自慢は、自然がとても身近にあることです。まず、大村湾です。長崎県本土の真ん中に位置する大きな湾で、地図で見ると湖かなと思うくらい外海との出入口が狭いんです。そのため、干満の差も1mくらいで安定した穏やかな海です。だからこそ、かつて参勤交代の時の航路として活用されました。また、豊かな魚介の恵みを与えてくれる里海でもあります。水揚げされる魚は200種以上です。年中通して釣れるクロダイ、これからの秋冬にはスズキ、春にはメバル、夏にはキスやイイダコなど多彩です。全国でもトップクラスの魚種数だと思います。なかでもナマコは時津町の特産品として人気です。大村湾は外海と比べて雨や川からの流れ込みが多くて塩分濃度が低いため、ナマコの身が適度に柔らかく、独特の歯ざわりが多くの人に好まれています。

穴見 山上町長をお訪ねする前に漁港の直売所に立ち寄ってみましたら、アラカブやカニが生け簀で売られていました。目の前の大村湾で獲れたばかりという鮮度の良さが贅沢ですね。干物や魚のてんぷらなどのお惣菜も販売されていて、買い物が楽しいですね。

山上 シーズンになると、カキ小屋ができます。毎月第3週の土曜日にはマグロの解体ショーも開催されます。

穴見 魚好きには堪えられませんね。

奇岩に祈願!?「鯖くさらかし岩」の伝説

山上 むかしは丸サバもたくさん獲れていたそうで、当町には「鯖くさらかし岩」の言い伝えが残されています。

穴見 少し下調べしてきたのですが、国道206号線沿いに巨大なコケシのように見える奇岩があるんですね。コケシの頭部分の丸い巨石が落ちてきそうで落ちないので、「落ちない岩」→「受験に合格する岩」として有名だとか。もともとの「サバを腐らせる岩」とはどういう言い伝えなのですか？

山上 ざっくりお話しますとむかし、一人の魚売りがいまして、大村湾で獲れた魚を漁師から買って、時津の村の人々に売って生計を立てていたそうです。ある日、出会った一人の客が時計を身に着けていて、魚売りはもちろん時計なんて見たことも聞いたこともありません。それは何かと尋ねると「時計といって、南蛮から持ってきたものだよ。これがあれば、何どきかひと目でわかる。今、長崎の港に南蛮船が入っていて、珍しいものが山ほどあるよ」。その言葉に居ても立っても居られなくなって、翌日、カゴいっぱいにサバを仕入れ、それを時津ではなく、長崎に売りに行き、ついでに珍しいものを見物してこようと計画しました。ところが、長崎を目指して時津街道を歩いていると、すぐそばの山の斜面に今にも転がり落ちてきそうな大岩があって、飛び上がったそうです。すっかり怖気づいてしまって、岩が落ちてから通り過ぎようと様子を見ているうちに、時間がどんどん過ぎてしまい、カゴのサバがすっかり腐ってしまった。その時からこの岩を「鯖くさらかし岩」と呼ぶようになったそうです。テレビの日本むかし話でも取り上げられた言い伝えです。

穴見 確かに下の岩に上の岩がのっかっているだけなのに、よくこれまで落ちませんでしたね。大きな地震などもあったはずですが。

山上 絶対落ちない岩ですから、受験合格のご利益も大きいですよ（笑）。町の新名物としてサバ缶を商品開発し、受験生に向けて激励の贈りものとして人気です。町内には2つ中学校があるんですが、3年生にはこのサバ缶とグッズを配っています。

穴見 言い伝えが現代によみがえるって素敵ですね。時津町はこうした海産物だけでなく、巨峰生産なども盛んとお聞きしました。

山上 巨峰誕生の地である福岡の田主丸町の技術支援を得て、本町のぶどう栽培は昭和36年からスタートしました。現在では長崎県内最大の産地規模を誇っています。

穴見 巨峰を活かしたグルメ商品も開発されていますね。

山上 最近、特に人気が高まっているのが「ぶどう酢」です。炭酸水で割って飲むと、美味しい健康ドリンクになります。果物に関しては、ミカンも全国の市場で高い評価を受けるおいしいものができるんですよ。また、キクラゲ栽培に力を入れていらっしゃる方がいて、地元企業とタイアップしてキクラゲを粉末にした商品など新製品開発も進んでいます。

長崎観光とセットで！寄り道とぎつ旅

穴見 2年前に西九州新幹線が開通し、長崎まで新幹線で来られるようになりました。隣町である時津町として何か変化を感じられることはありますか？

山上 観光業では長崎市にはかないませんが、当町には長崎市にはない自然の観光スポットが豊富です。新幹線で長崎に来られたお客様が時津の自然も楽しんで、高速船と長崎空港の航路で帰途に就くというのが一つのルートになればいいなと思っています。私自身も県外に出る時は、時津港から海上タクシーに乗って長崎空港まで行きます。約25分ですし、渋滞もありませんからとても便利です。時津町での時間をゆっくり楽しんでいただくためにも宿泊施設は必要です。ホテルAZさんに出店していただき、本当に助かっています。ニーズの調査などもしながら、さらなる宿泊施設の充実は今後の検討課題ですね。

穴見 当ホテルは平日はビジネスユースが中心ですが、週末は観光のお客様にも多くご利用いただいています。ホテル事業を通して、少しでも貴町の発展の追い風となるようなお手伝いができればと思います。

お茶屋（本陣）

大村藩は、交通の要衝である長崎街道の「彼杵宿」と時津街道の「時津宿」、海路の要所である「大瀬戸」の3カ所に長崎奉行や大名らが宿泊する本陣として茶屋を設置していました。明治期には茶屋が民間に渡り、一時期、酒造業が営まれたこともあります。茶屋の門や石垣は往時のもの。まだ一般公開はされていませんが、書院造りの座敷などしつらえも見ごたえがあります。

大村湾漁業協同組合

大村湾で獲れた地魚をメインに、生け簀やショーケースに毎日（盆・正月は休業）、長崎県内産の新鮮な活魚・鮮魚、干物などの水産加工品がズラリと並べられます。月に一度（基本は第3土曜日）午前11時から「長崎県産養殖本マグロ解体即売会」が行われます。駐車場あり。

受験生の味方!? 鯖くさらかし岩

町内の井手園交差点のすぐそばにある鯖くさらかし岩。突き出た岩の上に坊主の頭のような岩が重なっているため、「継石坊主」とも呼ばれます。上に乗っている岩が落ちてきそうで落ちないので、「落ちない岩」→「合格奇岩」として知られます。そのパワーにあやかって開発された「サバ缶」は受験生を励ますギフトとして大好評です。

継石坊主

巨峰生産は県内最大の産地規模！

時津町のぶどう栽培は昭和36年から始まり、現在では県内最大の産地規模を誇っています。甘みと酸味をほどよく含んだ味わいは格別です。また、町内の農産物直売所「ふれあい市時津店」にも旬の野菜やフルーツ、加工品などバラエティー豊かにそろっていて、おすすめの買い物スポットです。

時津まんじゅう

時津といえば「まんじゅう」といわれるくらい、その風味と名は広く親しまれ、百数十年の伝統を有しています。皮とあんこのバランスが絶妙で、できたてのまんじゅうは、また格別です。町内には時津まんじゅうを作っている店が3店舗あり、それぞれ少しずつ味わいが違います。食べ比べてみるのも楽しいですよ！

登山初心者でも気軽に楽しめる鳴鼓岳

昭和41年に県立自然公園に指定された鳴鼓岳。350～390メートル級の山々が連なり、比較的登りやすい山として多くの登山客が訪れます。アジサイ、ツツジ、シャクナゲやドングリが植栽されている花園から登山道を登ると、山頂には大村湾を見下ろす展望所や長崎市方面の見える芝生広場があります。「鳴鼓岳自然公園登り口」から中腹にある駐車場まで車で行けます。駐車場からの眺めも絶景です。

時津町の旬をお取り寄せ！

「飲むぶどう酢」アイスクリームにかけても美味しい！

時津町の豊かな山、海からの恵みをふるさと納税返礼品としてお取り寄せできます。「巨峰・シャインマスカット」は毎年完売するほど。巨峰の加工品もお目見えしており、特に「ぶどう酢」はファン増加中です。これからの季節は皮が薄く甘いと評判の「温州みかん」に注目！「マグロ」「カキ」などの海産物や地元で大人気のパン屋さんのパンセットなどバラエティに富んだ品揃えです。

【対談を終えて】

時津町は、海や山のすぐそばで暮らせるという魅力だけでなく、「小さな都会」といわれるほど利便性の高いまちです。町内を通る国道206号線沿いはミスターマックスを中心とする複合商業施設や大型スーパーイオン、コメリパワー、ホテルAZ長崎時津店のすぐ近くにもGUなどが入るショッピングセンターがあり、賑わいと雇用環境を創出しています。

また、同町には町立中学校2校のほかに、中高一貫の進学校として知られる青雲学園があることも今回初めて知りました。商業施設、学校や病院、海や山の自然を活かした公園など子育てしやすい環境は高く評価され、民間調査の「町の住みごこち」ランキングにおいて4年連続県内1位に選ばれているそうです。

健康づくり対策・高齢者対策として、ゴムチップ歩道にして歩く生活を促進したり、少子化対策としては多子世帯に対して所得に関係なく、保育園料を2人目半額、3人目全額無償にするなど住民サービスも充実しています。「暮らすまち」としての時津町にもぜひ注目していただきたいものです。

潮風と絶景を満喫！崎野自然公園

崎野半島にある崎野自然公園は、約11ヘクタールの敷地に、キャンプ場、草スキー場、アスレチック、展望所や遊歩道などを整備。コテージもあり、満点の星空や大村湾の絶景を見ながら、バーベキューなどを楽しむことができます。大人も子どもも思いっきり遊べる自然体験型の施設です。